



歌やあいさつ 浸透

授業開始前の午前八時四十分、英単語やフレーズをリズムに乗せた「チャンツ」が校内放送で響く。一年生から六年生の各教室では、児童たちが一斉にアルファベットと単語を口ずさむ。

「北立誠タイム」と呼ばれる同校の英語学習の一コマ。分かりやすく、楽しい放送をモットーに、火曜日はチャンツ、水曜日は一口フレーズ、木曜日は英語の歌を流す。同



体を動かしながらフレーズを学ぶ児童ら＝いずれも津市北立誠小で

津市・北立誠小 全校あげて英語教育

二〇二〇年度、全国の小学校で三年生から外国語活動が始まり、五年生から英語が教科になる。市は英語学習に注力する指定校を毎年定めており、一八年度に指定された同校は一九年度も取り組みを継続した。

ある日の六年生の授業は「自分の夢」がテーマ。担任教諭と米国出身の外国語指導助手（ALT）マシュー・ヘグストロムさん（三〇）が連携しながら教える。児童たちは動



廊下には毎月の英語一口フレーズを掲示している

北立誠小学校 母体となる前身校が1873（明治6）年に四天王寺内に設立。1947年に立誠小に校名を変え、53年に北立誠小、南立誠小に二分され、現在の場所に移転した。学区は三重大のほか、古い街道集落と大規模な住宅団地が混在し、3月現在の児童数は518人。

画のチャンツに合わせて身ぶりを交えてフレーズを練習したり、音声を聞いて書き取りをしたりと、にぎやかに授業が進む。前田蓮君（二）は「ゲームで遊んで楽しみながら覚えらる。あいさつを英語で言えて、会話もできるようになりました」と話す。

このチャンツ、実はヘグストロムさんのオリジナルだ。動画の素材となる写真から音楽、歌詞まで自作し、音声を吹き込んで編集。速すぎず遅すぎず、タイミングの調整が難しいのだという。数分の動画制作に八時間かかることもある。

自分の街を表現する授業では、「TSU（津）からはじまるABC」のチャンツを作った名所や特徴を英語で言えるようにした。ヘグストロムさんは「テキストには載っていない、具体的な内容を盛り込んでいる。子どもたちは賢く熱心で、やりがいがあります」と笑顔を見せる。

すれ違ふ時に「ハロー」とあいさつしたり、帰り道に英語の歌を歌ったりと、児童たちに徐々に浸透してきている。谷本博之校長は「英語が好きで知りたい気持ちが強くなり、学校生活に生かしてくれらる子どもが多い。新年度以降も取り組みを継続していく」と意欲を見せる。（本間貴子）